

「中川運河再生計画更新版（案）」 に対する市民意見の内容及び 名古屋市・名古屋港管理組合の考え方

「中川運河再生計画更新版（案）」に対し、貴重なご意見をいただきありがとうございました。いただいたご意見とそれに対する名古屋市・名古屋港管理組合の考え方を公表いたします。なお、ご意見の内容については、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文の一部を要約、分割するなどして掲載させていただきましたので、ご了承ください。

令和5年10月

市民意見募集の概要

●募集期間

令和5年8月1日から8月30日まで

●提出状況

提出者数：16人

提出方法：郵送（1人）、FAX（1人）、電子メール（14人）、

●意見の内訳

1. 再生方針1【交流・創造】について：32件
2. 再生方針2【環境】について：13件
3. 再生方針3【産業】について：3件
4. 再生方針4【防災】について：3件
5. 中川運河再生計画更新版全般について：4件
6. 空間計画について：3件
7. 再生に向けたしくみについて：1件
8. その他のご意見：5件

合計：64件

名古屋市 住宅都市局 都市整備部 名港開発振興課

電話：052-972-2784

FAX：052-972-4161

電子メール：a2784@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp

名古屋港管理組合 建設部 総合開発課

電話：052-654-7973

FAX：052-654-7992

電子メール：nakagawa@union.nagoyako.lg.jp

1. 再生方針1【交流・創造】について

<交流・創造の場の創出>

【市民意見の概要】

- ・休憩が出来る喫茶店、おしゃれなカフェなどの誘致をしてほしい。
- ・商業施設、自然歩道を運河沿いに設置するとともに、船舶航行を可能とし、名古屋駅から名古屋港、名古屋市内を歩きながら、また船に乗りながら自然と人との交流、ショッピングなどができる環境づくりをしてほしい。環境づくりには自然エネルギーを基本としたつくりとし、将来的には船舶による交通につなげたいため、鉄道、バスと同等コストで運営することを見据えたインフラづくりをしてほしい。
- ・沿岸地域のツタでおおわれた倉庫、荷役施設等の特徴的な景観を利用し、ガレージロックのようなにぎわいの創出ができるものとする。また、運河沿いの緑地を利用し、野外ライブの実施、水上交通での音楽提供など数々の思いがわいてくる。小規模な敷地、既存倉庫の活用を誘導いただくとともに、補助、助成も受けられるよう、すそ野を広げていただきたい。
- ・中川運河再生計画に基づいた周辺開発の整備補助、土地利活用等の規制緩和、既存事業者の移転支援等をお願いしたい。例えば、景観アドバイザー制度の活用（もっと使いやすしいものとしていただきたい）、移転・新築・改修等に対する補助金・税制優遇、運河周辺に高層建物は相応しくないので建設時に生み出された（余った）容積を都心に移転（容積移転による再開発の促進）。
- ・アート活動の誘致・支援をしてほしい。
- ・「中川運河宝探し」の復活・継続をしてほしい。
- ・東京の隅田川の様にしたらどうか。夏にはちょっとした花火のイベントを催し、人の目を楽しませる。
- ・中川運河をもっと遊びの場として利用を増やしたらどうか。運河の一角に生簀を設置して「釣り堀」を設置する。SUP、カヤック、手漕ぎボートが誰でもできるような桟橋と駐車場を整備する。ボート（エイト、フォア、ペア、スカル、ドラゴンボート）の競技会を開催する。全長100m、横幅10m、深さ1.2m、防水シートで作ったプールを設置して夏の期間に市民が泳ぐなど。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

- にぎわいゾーンについては、にぎわい施設の事業者が進出しやすい環境を整備するため、従来のルールを見直し、新たな方策を策定することで、にぎわいの誘導を推進します。またにぎわいゾーン以外も従来のガイドラインにもとづく、にぎわいの誘導を推進します。
- にぎわい施設の誘導等の周辺の開発状況を踏まえ、親水空間として良好な環境を形成し、効果的なにぎわい創出にもつながる、緑地やプロムナードの整備を進めます。また水上交通については、にぎわい施設への水上アクセスとしての近距離周遊ルート、乗船場の配置について検討し、水上交通の利便性向上を図ってまいります。
- 支線部等小規模敷地の貸付、既存倉庫等の活用によるにぎわい誘導、まちづくりに資する施設整備・管理への支援について、今後検討してまいります。
- これまでのアート活動等を始めとする市民団体等の交流・創造活動を土台とし、更なる

にぎわい創出や運河の魅力向上につながるよう新たな交流・創造活動（例：モノづくり技術を活用したアート制作・展覧会、地域イベントの開催）の創出や持続的な展開、連携拡充に向けた支援を行ってまいります。

- 中川運河では、ボート競技（名古屋レガッタ、ドラゴンボートレース大会等）に加え、ウェイクサーフィンやSUP（スタンドアップパドルボード）といった民間が主体となったイベントが開催されており、こういった大会の開催PRや水上アクティビティへの協力を行ってまいります。

<歴史まちづくりの展開>

【市民意見の概要】

- ・歴史的な倉庫・物揚施設・工作物などの保存・活用をお願いしたい。
- ・既存倉庫などを利用した新旧の運河の写真や歴史を紹介する資料館の設置やギャラリーへの支援。
- ・モノづくり産業ゾーンの重要性を評価し、景観の価値を保存・活用。
- ・モノづくり産業ゾーンは、運河から何を作っている工場が分かるように、会社のロゴ、名前を表示してほしい。
- ・松重閘門の復活をしてほしい。
- ・松重閘門の文化財としての整備が弱い。歴史変遷の資料を作り、中川区のメインビューとしてほしい。
- ・中川運河の松重閘門利用再生について、コストのかからない方法、インクライン建設による堀川との往来の再開を希望する。予算がかかるからという理由で閘門の再生、往来の復活をあきらめるのではなく、コストの低価な方法で閘門部の船の往来復活を希望する。インクラインであればトンネル構築、移動用レール、牽引構造の整備で、構造設備からの話題提供や、乗船客の各種設備見学体験にもなり有用ではないかと思う。
- ・長良橋東に明治天皇がご休憩された記念の石碑（名古屋市教育委員会が管理）が建っており、その石碑は現在では何のためにそこに作られたか、何の説明文も表示されていない。明治の初期に、移動手段が徒歩とか馬の時代に天皇一行が長良橋を何の目的で渡ったのか、調べて表示し観光ルートの一部に加えていただけたら、面白いのではないか。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

- 運河らしい外観を持つ倉庫や物揚施設などを歴史資産として、保存・活用するスキームを検討します。
- 運河特有の景観形成の誘導のため、ガイドラインにもとづき、建物の外観や沿岸用地内の緑化推進など、魅力ある景観への誘導を図ってまいります。
- 松重閘門の再生に向けた機運醸成、周辺の魅力向上など段階的な展開を行います。
- 中川運河固有の特性である歴史資産について、効果的な情報発信を企画・検討してまいります。

<魅力ある運河景観の創出>

【市民意見の概要】

- ・運河沿いが夜になると暗いので、水の流れの美しい景観を出すために運河沿いにトワイ

ライトをつけてほしい。

- ・中川運河のまわりにサイクリングコースやランニングコース、ウォーキングコースを作ると良いと思う。そして利用する人達のサポート施設も作ることで安全に運動できると思う。また、夜の中川運河が暗いので、コースに沿って明かりをとめてほしい。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

- 緑地・プロムナード等の施設整備における魅力的な景観の形成や夜景の演出を行ってまいります。

<水上交通の誘導>

【市民意見の概要】

- ・運河クルーズのさらなる充実（堀川・中川運河・名古屋港の回遊）、乗下船場の増設をしてほしい。
- ・今の船よりスピードが出る船にして、利用者が車を使うよりメリットが出るものとし、便数を増やしてほしい。
- ・「クルーズ名古屋」の運航開始は評価するが、年間1万人の乗客で採算はどうかになっているのかまで示すべきで、通勤通学の足としての利用まで念頭においているのかについても方向性を明示すべき。
- ・松重閘門を開通させ中川運河と堀川、新堀川をつなげて名古屋市内を船で航行できるようにしてほしい。庄内川からの水を増量し、可能であれば庄内川まで航行できるように拡張してほしい。
- ・水上バスによる交通手段を、まず名古屋駅～名古屋港の中川運河沿いの住民の希望者に定期を購入いただく形で検討してほしい。
- ・クルーズ名古屋乗船場や切符売り場付近の建物整備（案内、売店、待ち場の椅子等）をしてほしい。クルーズ名古屋があることを知ってもらいたい。
- ・水上交通の広域的展開を図るため、市民・企業・学校・行政等の連携・発信の強化、yahoo路線等乗り換えアプリなど一般ユーザー向けの広報活動、周辺施設との積極的な連携をお願いする。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

- 水上交通の充実とネットワーク化を図り、名古屋の観光としての魅力を高めるために、引き続き委託による水上交通の運航を進めながら、集客の向上を図り、民間主体による持続的な定期運航を実施してまいります。実施にあたっては、にぎわい施設への水上アクセスとしての近距離周遊ルート、乗船場の配置について検討し、水上交通の利便性向上を図るとともに市民・企業・学校・行政等による連携の拡充を図るなど、頂いた意見を参考に地域にも愛される水上交通を目指してまいります。

<その他>

【市民意見の概要】

- ・水上から見る事が出来る橋の銘板の設置をしてほしい。
- ・今後のリニア開通もあり、東京から名古屋への観光客、外国人が名古屋のささしまから名古屋港水族館等への水面航路移動に魅力を見出すように、中川運河にかかる14本の

橋の色を日本の色を使ってバリエーションに富んだように脚色してほしい。

- ・ 広見憩いの杜は、人が集まっているように見えないため、ドッグランを作ったり、子供が遊べる遊具を置いてはどうか。
- ・ 周辺の緑地・公園との回遊性向上（運河周辺エリアも含めた回遊性づくり・発信）をお願いする。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

■ ご意見の趣旨を踏まえ、今後の参考とさせていただきます。

2. 再生方針2【環境】について

【市民意見の概要】

＜良好な水環境の創出＞

- ・ 最優先事項として水質改善をしてほしい。水がきれいで魚、野鳥がいる所は必ず繁栄すると考える。
- ・ 地道な水質調査等を大切に行いながら魚が浮くような事のない水質の改善をお願いする。
- ・ 現在、運河沿いの珈琲元年、バーミキュラは、川の流れが見えて、水面には、水鳥が泳ぎ、都会にあり自然の趣きを感じられ、人気スポットになっている。水面の浄化を図り、水鳥が、寄ってくるような、清らかさを今後図ってほしい。
- ・ 水質の改善については、「水循環の促進や下水道からの排水の改善などを検討・実施するとともに、多様な主体の連携によって、水質の改善を図ります。」と中川運河再生計画にあり、実績も示されているが、更新版の課題については「引き続き、良好な水環境の創出に向けた検討が必要です。」と記載が抽象的である。
- ・ 名古屋市の下水道の60%の区域が未だに合流式であることが水質改善の大きなネックになっていると思われるが、こうしたことへの記述は2012年の中川運河再生計画に「合流式下水道の改善を行います」と記載されているが、今回の「更新版」からこの項目は削除されている。合流式下水道の改善や解消はしない方針なのか。合流式下水道解消に向けた取り組みの方向について記述すべきである。
- ・ ゴミの漂流対策をお願いする。

＜緑豊かな空間の創出＞

- ・ 沿岸の緑化などの環境整備をしてほしい。
- ・ プロムナードなど散策を楽しめる施設整備をしてほしい。
- ・ 水辺に安全に近寄れる沿岸整備をしてほしい。
- ・ 運河沿いの歩行者空間・パーソナリティモビリティゾーン（自転車含む）の形成をし、長良橋から南の安全・安心なエリア作り、にぎわい形成をお願いする。

＜多様な生き物に親しめる場の創出＞

- ・ 大きな樹木が並び、小鳥がさえずるような自然豊かな景観があると、ストレス発散の場として健康にも有効と考える。

＜その他＞

- ・付近に鉄道の駅がないこともあり、地元の方以外は中川運河に馴染みがない。そこで中川運河沿いを桜の名所とし、市民の方々に興味を持っていただけたら、中川運河沿いが活性化するのではいかと考える。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

＜良好な水環境の創出＞

■中川運河は外部との水の出入りが少なく閉鎖性が高い水域のため、水質を改善するためには水の循環を促進することが必要です。水の流動・交換を促進し水質改善を図るため、露橋水処理センターの高度処理水を中川運河堀止部へ送水し、運河堀止部の水循環を促進するとともに、地先にも高度処理水を放流し、中川口から取り入れた海水と併せて、松重ポンプ所から堀川へ放流する水循環を行っております。また、水質を改善するための合流式下水道の改善の施策として、露橋水処理センターにおいて、高速ろ過施設を導入しました。あわせて、雨水時に中川運河へゴミが流れることを防ぐための装置を設置するとともに、雨水ポンプ所においてスクリーン目幅縮小を実施してきました。

更に水循環を促進する松重ポンプ所の改修や東支線における底層改善を図る覆砂を引き続き実施するとともに、更なる水質改善施策についても検討を行います。

■漂流ごみにつきましては、引き続き名古屋清港会の船舶による清掃を毎週実施してまいります。

＜緑豊かな空間の創出＞

■ガイドラインにもとづき、沿岸用地内の緑化を推進してまいります。

■緑地・プロムナードの設置につきましては、親水空間として良好な環境の形成、効果的なにぎわい創出にもつながることから、にぎわい施設の誘導等の周辺の開発状況を踏まえ、整備を進めてまいります。

＜多様な生き物に親しめる場の創出＞

■生物多様性にも配慮し、市民が生き物に親しみ、自然を身近に感じられるよう、緑地や沿岸用地の植栽等による生物生息環境を整備してまいります。

＜その他＞

■ご意見の趣旨を踏まえ、今後の参考とさせていただきます。

3. 再生方針3【産業】について

【市民意見の概要】

- ・再生計画更新版には、「名古屋の経済・産業に貢献していくため、新たな多様な産業の誘導に努め、それらの産業の実証実験や育成の場とする」という非常に優れた視点が示されている。しかし、それを実現するための方法論については、カーボンニュートラルポート形成計画との関係などに言及しているだけで、具体性に乏しいように思われる。先端産業の立地を可能とする不動産マネジメントやインフラ整備などの視点を入れて、現実性のある戦略を立案すべきではないか。
- ・モノづくり産業ゾーンには、中部の中小企業から、有力なものを選び、体験できたり、見学できたりして、将来、ものづくり、名古屋のモノづくりのブランドにしていってほ

しい。

- ・2012年策定の中川運河再生計画に「ガイドラインにもとづき、モノづくりの未来を支える産業の誘導を図ります。」とあるが、更新版では、p39に「沿岸地域においては、港湾・物流産業に加え、今後成長が期待される産業の誘導もすすめ、産業空間の価値の向上を図ります。」とある。記載がなぜこのように変わったのか説明もなく、単なる記述者の気分での書き換えなのかと思えてくる。また、具体性に乏しく、本気でどこまでやるのか疑問が残る。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

- 多様な産業の誘導に向け、沿岸用地の空き状況を踏まえ、本市の産業振興施策とも連携し、まずは中川運河という場を事業者へ周知するとともに、社会実験の場としての活用促進を図ってまいります。
- 多様な産業の新たな誘導を図るため、平成27年3月にガイドラインを策定し、沿岸用地での多様な産業の立地が可能となりました。多様な産業とは、従来の港湾・物流産業に加え、モノづくりの未来を支える環境・エネルギー課題解決産業、医療・福祉・健康産業、クリエイティブ産業、先端分野産業などの次代を担う産業のことです。（更新版10ページに記載有）今後概ね10年間の取り組みとして、それらの多様な産業の誘導を推進してまいります。

4. 再生方針4【防災】について

【市民意見の概要】

＜地震・津波災害に対する防災機能の強化＞

- ・「老朽化した護岸の改修を行います。」と記載されているが、改修が必要な護岸がどれだけあるのか、そのうちどこまで進んだのか、いつ頃までにどこをどのような改修を行うのか明確にすべき。

＜その他＞

- ・南海トラフ地震に備える大規模な避難所と空飛ぶ車・ドローン発着駅の機能を併せ持つ建物の建設を提案する。建物は、中川運河上に橋脚で5mの高さを確保し、津波5m対応とし、その上に必要施設を建てる。建設場所は、名古屋駅と金山駅を結ぶ篠原橋付近。また、中川区海拔0m地区には、津波・洪水避難所が必要。方針4に沿う将来を見越した提案検討をしてほしい。
- ・中川運河の中でも、東京タワーの様な、ひときわ際立つタワーを建設しても面白い。地震の時の避難所としても活用できる。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

＜地震・津波災害に対する防災機能の強化＞

- 地震・津波対策として、中川口通船門の改修は完了しております。護岸の改良については、護岸の老朽化の状況等に応じて、引き続き進めてまいります。

＜その他＞

- ご意見の趣旨を踏まえ、今後の参考とさせていただきます。

5. 中川運河再生計画更新版全般について

【市民意見の概要】

- ・平成24年策定の中川運河再生計画から10年が経過したことから計画を更新するのであれば、4つの再生方針について、どこまでできたのかを明確にし、進捗を総括し、新たな社会情勢や社会要請踏まえ、「更新」の方針を示すべき。確かに更新版では、実績と課題及び総括が記載されており、名古屋市の他の計画ではこうした点が極めて不十分であることを考えれば、前進的側面と評価できる。しかし、例えば、前計画の方針1では4点7項目の施策が記載されているが、更新版では、実績と課題が4点5項目にまとめられており、記載内容も必ずしも具体的でなく、わかりにくい。
- ・にぎわいゾーンで、具体的に何が実施できたのか、課題は何かについての記述が見当たらない。到達点と課題を明確にし、今後の方向性を具体的に記述すべきである。総括抜きで新たな計画が記載されているのは理解に苦しむ。
- ・課題に「リニア中央新幹線開業に向けた名古屋駅周辺でのまちづくりをはじめとする周辺地域開発と連携し、効果的ににぎわいの創出を図るため」と記載されているが、「周辺地域開発」が何で、「連携」が何を指すのか、具体的な内容がなく理解できない。無理やりリニア中央新幹線と結び付けようとしているとしか思えない。
- ・現状、プロムナード整備、沿岸用地への施設誘導、緑化推進がバラバラの扱いにとどまっているように思う。公共還元型の港湾緑地等の施設整備の枠組みを積極的に活用し、沿岸用地を借り受ける事業者に対して、プロムナードやそれに代わる動線の確保と建物外構の通行自由化と引き換えで借地契約条件を優遇するなどの方法を工夫すると、より个性的で多くの人々が利用したくなる空間が生まれる可能性が高まるのではないか。その際、中川運河らしい緑環境や道路・水路間のアクセスを含む動線をセットで提案させるとよいと思う。
- ・レクリエーションゾーンの検討不足。点で開発しているにぎわいエリアを結ぶ線として、中川運河を介した連携や水上スポーツの積極的誘致や環境整備の検討をお願いする。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

- 再生方針ごとの主な取り組み内容の実績と今後の課題につきましては6ページから10ページに、総括につきましては11ページに掲載しております。主な取り組みとして取り上げたものは、これまでの実績を踏まえ、今後の課題がある取り組みを掲載しております。そのほかの取り組みにつきましては、2012年に策定した中川運河再生計画に記載の取り組みを継続して進めております。
- 更新版3ページに記載のとおり、中川運河の周辺では、リニア中央新幹線開業に向けた開発やささしまライブ24地区のまちづくり概成、港明地区工場跡地での大規模な集客施設の整備などの開発が進められています。中川運河において、効果的ににぎわいの創出を図るため、周辺地域のまちづくりと連携し、にぎわい施設の誘導を一層推進してまいります。例えばささしまライブ24地区の開発と連携した緑地・プロムナードの設置や、沿岸用地へのにぎわい施設の誘導等を展開し、運河の魅力と回遊性を高める取り組みなどを実施しております。
- 22ページのプロムナードとにぎわい施設の連携イメージ図のとおり、沿岸用地へのにぎわい施設の誘導、沿岸用地内への緑化推進、前出し護岸・プロムナードの整備、にぎわい施設からプロムナードへアプローチする空間整備等の民間まちづくりへの支援など、連携した取り組みを進めてまいります。公共還元型の港湾緑地の導入の検討にあた

っては、いただいたご意見の趣旨を踏まえ、今後の参考とさせていただきます。

- 「レクリエーションゾーン」においても水上交通の充実とネットワーク化や水上スポーツ機能の拡充に向けた環境整備などを進めてまいります。

6. 空間計画について

【市民意見の概要】

- ・具体的な取り組みが方針1、特に「にぎわい」づくりの側面に偏っている。堀止周辺へのにぎわい施設の誘導は、リニア効果の波及に期待しているように見受けられるが、それが都心の商業集積の延長線上でイメージされたにぎわいだとすれば、期待どおりに進む可能性はどの程度あるのか。再生計画更新版で言及されている医療・福祉・健康やクリエイティブ産業の育成・誘致と連動させながら、目的性の明確な「にぎわい」づくりを進めるという戦略を検討すべきではないか。
- ・「にぎわいゾーン」「モノづくり産業ゾーン」「レクリエーションゾーン」という区分けは、周辺市街地を含めた各エリアが有する開発ポテンシャルと整合しているか。ゾーンの区分けにこだわるよりも、目的性の明確な「にぎわい」づくりを運河軸に沿って戦略的に展開した方が効果的ではないか。
- ・「にぎわい」とは関係の薄い環境・エネルギー課題解決産業や先端分野産業などの育成・誘致に関しては、周辺で小規模な宅地開発が進んだ「モノづくり産業ゾーン」よりも、大規模な施設が多く、開発可能なまとまった土地が発生する可能性が高い「レクリエーションゾーン」およびその周辺の方がふさわしい条件を備えているように思う。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

- 中川運河再生のためには、土地利用や開発動向等を踏まえ、設定したゾーンごとの再生イメージの実現に向けて取り組みを進めていく必要があると考えております。その中で、にぎわいづくりについては、更新版12ページに記載している①周辺地域のまちづくりとの連携の拡充、②中川運河固有の特性の更なる活用、③運河再生を更に進展するしくみの拡充、④社会的要請への対応の4つの視点に基づき設定した、取り組み内容を着実に進めることで、にぎわいの創出を図ってまいります。

「にぎわいゾーン」は、名古屋駅やささしまライブ24地区に近く、堀止地区や運河の歴史を物語る松重閘門等が存在し、集客のポテンシャルが高い地区であることから、運河回遊を導入し、運河の歴史・文化・芸術を楽しめる、都心地域に集まる人びとが訪れたいくなるようなエリアの形成を目指し、取り組みを進めてまいります。

「モノづくり産業ゾーン」は、物流関連企業が産業活動を展開し、これまで運河の水運を利用してモノづくりの発展を下支えしてきました。水運から陸運へと輸送形態が転換した現在も物流を通じて、名古屋圏の経済発展に寄与しています。名古屋の産業・経済を支えてきた運河の歴史を継承しながら、モノづくりの未来を支える産業との融合を図ることにより、産業空間としての価値が一層高まるエリアの形成を目指し、取り組みを進めてまいります。

「レクリエーションゾーン」は、広大な水域を活用した水上スポーツや市民団体等によるイベントが開催され、沿岸用地や周辺地域には緑地や公園も整備されており、市民が楽しめる空間となっていることから、緑豊かな水辺で人びとが気軽に交流を楽しめるエリアの形成を目指し、取り組みを進めてまいります。

- 環境・エネルギー課題解決産業等の多様な産業は、更新版33ページに記載しています

「モノづくり産業ゾーン」及び「レクリエーションゾーン」の内、将来の土地利用において産業系のエリアとして位置付けている箇所への誘導を図ってまいりたいと考えています。

7. 再生に向けたしくみについて

【市民意見の概要】

- ・市・県・国の歩調を合わせた全体スキームの作成をお願いする。現在、運河に関する意見交換の場が複数あり、集約を望む。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

■国・県・市・名古屋港管理組合による検討会を開催するなど、中川運河再生に向けた施策展開の内容について共有しております。また、市民・企業・学校・行政等の多様な主体が自由に参加し、中川運河に関する情報発信、共有、意見交換を行い、相互関係を深め、中川運河の再生を盛り上げていく場として、中川運河再生プラットフォームを開催しております。

運河再生を更に進めるため、中川運河再生推進会議と中川運河再生プラットフォームの関係を強化してまいります。

8. その他のご意見

【市民意見の概要】

- ・昭和橋と東海橋の間に水道橋があり、ボートレース整備のため、この橋を架け替える予定があると聞いたことが有る。その時に人が渡れる人道水道橋にならないか。新船町の方は対岸のキャナル乗船場から船に乗れるようになり、新川町の方は東海橋バス停から名古屋駅行のバスに乗れるようになり、お互い便利になると思う。
- ・名古屋から、中川運河へは、シャトルバスを運行し、地上と水面をつないでほしい。
- ・中川運河を将来、名古屋市の観光地の一つとして、外国人を呼び込む手段としたらどうか。
- ・みなとアクルスは名古屋市と共同で脱炭素先行地域に選定されたエリア。また名古屋港カーボンニュートラル形成協議会で水素の利活用も検討されている中、運河周辺を国内で象徴的なカーボンニュートラルゾーンとして、整備・運用（遊覧船含む）するビジョン（CNP 形成計画と中川運河再生計画の連動ビジョン）の形成をお願いする。名古屋港で製造・受入れたカーボンニュートラルなエネルギーを中川運河を使って、名古屋都心へ運搬、中川運河周辺施設やプロムナードの照明等の再生可能エネルギーは CNP にて用いられたものを活用、水上交通の船は CNP にて用いられたカーボンニュートラルエネルギーを活用して、カーボンニュートラル運航船を実現など。また環境への取り組みの先行事例としての積極的な発信をお願いする。
- ・アジア・アジアパラ競技大会の位置づけの見直し。一過性のものでその後の展開の検討をお願いする。

【名古屋市・名古屋港管理組合の考え方】

■ご意見の趣旨を踏まえ、今後の参考とさせていただきます。